



みぬまニュース

第76回 見沼塾

『いろいろ端で聞く昔話』10月24日(日)

浦和くらしの博物館民家園に芳賀御夫妻を講師に迎え、28名の受講者で開催しました。

2部構成とし、前半は旧野口家住宅を会場に、動物が登場する昔話をテーマに見沼に関わる昔話やこの講座用に創作した話を織り交ぜ、「見沼解説」の後「亀と雁」「竜がいた沼」「風子と蛙」を語り紙芝居で行いました。後半は語りとリュート(弦楽器)のコラボレーションにより「ならなしとり」「貧乏神と福の神」「あとかくしの雪」ほかの昔話を旧蓮見家住宅で披露しました。

第1回見沼たんぼ清掃ボランティアに84名が参加

11月7日(日)さいたま市内はもとより埼玉県内・東京都内からも参加者が集まり、大人43名、子供25名、スタッフ16名の総勢84名で第1回見沼たんぼ清掃ボランティアを行いました。清掃活動は見沼たんぼ芝川沿いの神明下橋から石橋までのおよそ1キロの間の左右両岸に分かれて行いました。

空き缶やペットボトルなどの回収を約一時間半おこない、多くのゴミを収集することができました。作業が終わった後、参加者の皆さんは晴れやかな顔でもどり、記念品のお米とお茶を受け取り帰路につきました。

「次回の清掃はいつですか」「場所はどこで実施するのですか」などの声が聞かれ、見沼たんぼを綺麗にし、貴重な緑地空間を守るという強い意識を感じました。



芝川沿いの清掃

今後も当くらぶでは清掃活動を通じ見沼たんぼの自然環境や景観の保全に向け一助となるよう意識の高揚を図ってまいります。(三上雅央)

2010年 見沼ふれあい農園づくり

農園づくりは、昨年に引き続きさいたま市緑区見沼にある県公有地約2千㎡の土地で実施しました。8月からの耕耘・施肥・畝作りなどの準備作業を終えた後、9月に第1回目の秋野菜大根(聖護院・源助・赤芯)・蕪・春菊・小松菜・キャベツ・ブロッコリーの種蒔き・苗植えを行いました。この農場づくりは、県民参加により行われ公募による応募者は110名となりました。これに県

担当者、当会理事等を併せて作業に参加された延べ人員は301名(うち子供87名)です。第1回の作業から2週間おきに除草・間引きを行い11月の第5回目には待望の収穫日を迎えました。常に天候に恵まれ晴れた日の作業となりました。参加者には新鮮な野菜をお持ち帰り頂きました。なお、皆勤の10グループの方々には小型のキャベツを差し上げました。(若野忠男)

見沼たんぼ斜面林の体験学習

『特別緑地地区 大和田緑地公園』12月12日(日)

午前9時、寒風肌にしみる中、16名が大宮体育館正門に集った。そこから、すぐ南側に広がる見沼最大級の斜面林『特別緑地保全地区大和田緑地公園』に入った。風がなく木漏れ日のさす森は暖かかった。

はじめに森の見学だ。まず北部の若い雑木林 6年前に高木を皆抜き、コナラ・クヌギの苗を植えた所。それから、中部の年寄りの雑木林 65年前にコナラ・クヌギの萌芽更新(切株から発芽成育)した所。さらに、凹地に再生した谷地 水生生物保護の水辺。

次は、熊手を使って落葉かき。腐葉土づくりと林床植物の発芽促進のためだ。なぜか、今年は例年になく落葉が多い。落ち葉をせせとかけ集め、大きな布袋に詰め込み、集積所まで運搬という作業を繰り返す。

正午解散。見沼たんぼくらぶで栽培した無農薬の大根3種と蕪を持てるだけお土産に差し上げた。「疲れが吹っただよ。」などと皆さん大喜び。(小野 達二)

見沼たんぼの四季 『収穫の冬』

田んぼも畑も冬に向かって次第に静かになってゆきますが、11月下旬から12月末にかけてが年に一度の収穫時のくわいの田んぼは、総動員の忙しさです。今年は例年になく暖かくなりましたが、普段は冷たい北風の中での作業です。

写真は、水の中から掘り出したくわいを集めて、畦で茎からひとつひとつ手作業で取り外しているところ。あちこちに大きな茎の山ができています。次に洗って泥をきれいに落とし、選別。ひとつひとつこうして何度も人の手を経て、新しい年を迎えるために出荷されていきます。(高橋)



くわいの選別

見沼たんぼ探訪記

見沼たんぼには、四季折々の美しさを感じられる自然や、文化や歴史により育まれた風景など、魅力的なたくさんの見所があります。ここでは、そんな見沼たんぼの見所を紹介します。

「第二回見沼たんぼふれあいウォーキング」

11月20日、よく晴れた秋空の下で、「第二回見沼たんぼふれあいウォーキング」を行いました。

昨年は見沼たんぼの北側にあたる市民の森を中心としたコースで実施したので、今回は南側となる東川口駅から氷川女体神社を通り、くらしの博物館民家園までの



約6kmのコースを歩く

約6キロのコースを設定しました。

今回は参加者数が19名と少かった反面、見沼たんぼの自然を体で感じ取り、参加者同士の交流を深めていくという、最大のコンセプトは十分に果たせたと思います。

今回のコースの特徴は、スタートとなる大間木の氷川神社から清泰寺の脇を通り、国道を横断して見沼代用水西縁の遊歩道から氷川女体神社までが往路となります。このあたりはまでは家並みが少し続いているのですが、復路となる女体神社から芝川に沿っての念仏橋までは、畑の中の1本道を進むことになります。

見沼代用水は西縁も東縁も遊歩道が整備されていて、特に朝夕はたくさんの方がウォーキングを楽しんでいます。最近では日常生活の中で個々人が自分の体力や生活環境によって行うライフワークとしての、ウォーキングが定着してきたように思われます。

コースの途中では農作業をしている人もあり、あちらこちらで参加者の会話に付き合っているような光景も見られました。新井会長も全コースを歩きましたし、誘導員と参加者との会話はずんずん進んでいました。ノグシや赤みを増したカラスウリやザクロも見られました。芝川沿いではカワセミも飛んでいました。

みちくさしているようにも見えましたが、歩き始めて2時間ほどで全員がゴールしました。ゴールした全員に、記念品と見沼たんぼで収穫したお米を差し上げました。

歩き終わって何人も参加者から、草や鳥などの名前を丁寧に教えていただき貴重な体験をしたといったうれしい言葉をいただきました。

ご参加の皆様方来年もぜひまたお会いしましょう、私たちも創意工夫を重ねて少しでも皆様方に喜んでいただけるような企画をしたいと思えます。ありがとうございました。(佐々木明男)

賑わった「2010年・さいたま市農業祭」

「さいたま市農業祭」は、11月20日並びに21日の2日間に亘って開催された。主催はさいたま市農業祭実行委員会であり、参加した団体の数は55団体にもおよび盛大なお祭りとなった。会場となった見沼たんぼに位置する「市民の森」では、こうした団体が「葦」で囲った屋台店を開設、取りたての野菜や果物、精肉、うどん、そば・・・等を直売する。新鮮でかつ安価であることから、来場者も大変な数に上り、どの店も、人垣が出来る程の賑わい振りであった。

「いらっしゃい・・・、あいよ、あいよ・・・」とみせびと店人は大きな声を張り上げながら大根を両手に持って客に呼び掛ける。直径が13~14cmもある真っ白なもので、「オデンの具」にでもしたら最高な品になるであろう。あちらの方では緑茶の「試飲コーナー」もあり、多くの方が口に含んでは美味しく味わっている。その向こうには焼きそばの店があり、目の前で「味自慢」の品を作って販売している。



市民の森で開催された農業祭

花卉類や植木類の販売コーナーもあり、色とりどりの花や植木が見られ、まるで絵本の中の世界を覗いているように目を楽しませてくれる。中には店人と話し合いをしている姿も見られ、店人はその人の質問の度に、植木の枝葉を丁寧に抑えながら剪定バサミで切ったりしている。客が熱心に尋ねてくれば、店人もそれ以上熱心になって応答しているのには感心してしまった。

いつもこの芝生広場には、多くの家族連れや子供たちがシートを広げ、その上で、オニギリを食べたり運動をしているが、この2日間は、農業祭に訪れる人の波で溢れる程である。本部の人に尋ねると、このお祭りは、農業振興や地元の農産物の紹介をメインに掲げたものだという。秋の収穫祭をも兼ねているのであろうが、実に盛り上がった農業祭だ。

幸い好天に恵まれた事もあってシニアのご夫婦、小さな子供を連れた家族連れ、若い男女の仲間たち・・・等々、訪問者には色々な姿がありにこやかである。帰り姿の皆さんは、野菜や果物を詰め込み大きな袋をさらに大きくし、両手に重そうに下げて会場を後にして行くのでした。(召田紀雄)

見沼たんぼの植物

－ サツマイモの花 －

10月中旬サツマイモの花を新見沼大橋有料道路の北側の畑で見付けました。この花は暖地では見掛けられるようですが、私にとっては初めて見る花です。写真はその時に撮ったものですが、アサガオに良く似た漏斗状をしており色は淡紅紫色で美しい花です。実はアサガオと同じような蒴果（乾性の子房の発達した果実で熟すと縦列して種子を散布するタイプ）とのことです。サツマイモは、ヒルガオ科のつる性植物で、埼玉県では畑地でよく栽培されています。花がアサガオに似ているのは、アサガオもまたヒルガオ科に属しているからです。



サツマイモの花

サツマイモの原産地は中南米で、日本には17世紀前半に中国、沖縄を経由して九州南部に伝わり作物として普及しました。これが関東地方にまで広がったのは、江戸中期の蘭学者青木昆陽（1698～1769）が「蕃薯考」（1735）を著わして試作、救荒作物（凶作の時にも生育して収穫し得る作物）としてその普及に尽くしたからです。甘藷先生として尊敬され、その頌徳碑はさいたま市の大宮公園や三芳町の木ノ宮地藏堂に建てられています。

サツマイモを漢字で書くと、「薩摩芋」又は「甘薯」となります。「薩摩芋」は、海外からの渡来種ですが薩摩地方で栽培されたことが名前の由来でしょう。又、「甘薯」は漢名であります。

食材となるサツマイモは、養分を蓄えるため根を肥大させたもの、すなわち塊根（芋）を指しています。なお、似た食材であるジャガイモは、ナス科の植物で茎が肥大して出来た塊茎（芋）によるものです。こちらは初夏に白・淡紫色の小花が咲いているのをよく見掛けます。この種の原産地は南米アンデス高地であります。なお、この語源は「ジャガタライモ」の略で、慶長年間（1596～1613）にジャカルタより渡来したからといわれます。

（NPO法人自然観察さいたまフレンド・若野忠男）

見沼たんぼの動物

－ カモ科の仲間10種も健在 －

いま、見沼たんぼの水辺にはカラフルなカモ科10種が見られます。

見沼たんぼに棲みついている留鳥は、くちばしの先っぽが黄色いカルガモです。シベリヤ方面から晩秋に飛来し春に北へ帰る冬鳥は例年9種です。

ライフスタイルでは2グループに分類できます。

淡水ガモ－水面・陸地採餌（草食）

カルガモ コガモ オナガカモ マガモ ヒドリガモ ハシビロガモ ヨシガモ オカヨシガモ

海水ガモ－潜水採餌（雑食）

キンクロハジロ ホシハジロ

足場の良い水鳥観察地

大宮公園、大宮第三公園、合併記念見沼公園、見沼自然公園、芝川（大宮南部浄化センター前）



コガモ



オナガカモ



ホシハジロ

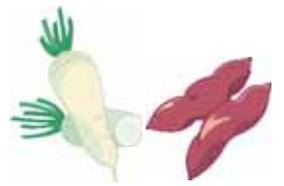


キンクロハジロ

（NPO法人自然観察さいたまフレンド・小野達二）



見沼たんぼの農家さんのお話



定年退職後の農業への挑戦

定年退職後は田舎で自然を相手に農的生活を送りたい、という夢を描いている人がこのところ増えているようですが、現実はなかなか難しいようです。ところが、浦和区にお住まいの小川勝仙さんは退職後、見沼で農業者としての第2の人生をスタートさせました。

農業とは何の縁もなかった小川さん。ずっとソフト開発関係の仕事が楽しくて仕事に没頭していました。しかし50歳台半ば頃から、第2の人生における自分探しをしていたそうです。「世の中は自分に何を求めているか」というのが、その命題でした。農



大根の収穫が真っ盛りの畑での小川さん

業を選択したのは、食糧問題への関心からで、国に頼っているだけではだめだ、一人一人、志を持った人間が具体的に何かをしていくことが大事ではないかと思ったからだ、と、さりげなく話してくれました。全く係わりなかった農業を始めることに、もちろん不安はあったといえます。しかし、もう子供も育て終え、家族を扶養し生活を支えていく収入を得なくてはいけないという時期は過ぎた、と心を決めてからの行動は早く、埼玉県の農業大学の新規就農者技術研修を受け、農業者としての生活を始めます。しかし、ご家族はさぞかしびっくりされたのではないかと思います。小川さんは苦笑いしながら、今は、まあ認めてくれているけれど、最初はやっぱ反対された、と教えてくれました。とはいうものの、今では販売などを手伝ってくれているそうです。

それから3年が過ぎ、現在46アールの畑を見沼地域で耕作する認定農業者です。主に、ねぎ、なす、きゅうり、トマト、ピーマン、里芋、大根などを栽培しています。直売所などに出荷していたこともありましたが、荷造りや決められた時間での出荷などの手間と作業時間との兼ね合いを考え、現在は自宅前のスタンドでの直売をメインにしています。すべて露地栽培で、基本的に農薬は使っていません。店頭と並ぶ流通品と比べると、虫食いがあつたりして見栄えが悪い、と小川さんはいいます。だから販売は、生産者と消費者が顔の見える関

係を結べる直売が一番適しているということで、なんと、浦和駅から徒歩10分ほどのところに採りたて野菜の直売スタンドがあるのです！若い人からお年よりまで、主に近くの人ですが、北区や西区、見沼区や南区などから買いに来る人もいます。特に野菜が高い時期に遠くからくる人が多いということです。宣伝はしていないので口コミで知られていったようです。子供を連れて若いお母さん達から「この野菜を使うようになってから子供が野菜好きになった」と言われるのがなにより嬉しい、と語っておられました。

農家ではない小川さんには農具や収穫物の保存、作業をする納屋がありません。また、

農地は公社や農家から借りていますが、期間が短かったり途中で返却しなくてはならないことがあったり、土作りを始めてもそこで安定して耕作することがで



片柳の畑

きなかったりと、問題もいろいろあります。また、3年目の今年は赤字解消を目指したけれど、猛暑の影響もあってやっぱりマイナスになってしまったそうです。もちろん人件費はゼロで計算して、です。とりあえずは収支の赤字解消を目指して、そのために来年度は販売方法や作付けを少し変えてみようかと計画しているそうです。

今、農業を支えていくために様々な取り組みがなされています。若い人達の農業への参入や企業による集約化などだけでなく、年金生活者による新しい形の参入も「今」を支える大きな柱となり得るのではないのでしょうか。退職を機にUターンした人達のグループが地元の高齢化した農家の手助けをしているといった事例もあります。そうした意味からも、過渡期を迎えている日本の農業のあり方を考えるとき、小川さんの取り組みは、また新しい「何か」を生み出してくれるような気がします。

直売スタンドはこちら！

さいたま市浦和区本太1 - 35 - 3

見沼たんぼ 水彩スケッチ紀行

絵と解説 八木一郎



「利根大堰の冬景色」

(左岸より見沼代用水 取水口をみる)

利根の早い流れはこの大堰で遮られて、さざ波さえ目立たぬ静かな水面に変わる。葦の景陰、ヨシキリの鳴き声もピタリとやんだ。



「八丁橋 (水神社・鈴木家住宅)」

見沼新田開墾の約100年前、伊那忠活は今の附島から山口橋まで8丁の堤(八丁堤)を築いて、これより北の湿地帯を「見沼溜井」と呼ばれる大貯水池とした。その後堤は干拓の際改造されて通船堰が閉通する。左方の青屋根の家は鈴木家で、幕府より運河通行権を与えられていた旧家。右方の神社は「水神社」。通船関係者の水難防止を祈願して建てられた。

見沼たんぼの仲間たち No. 18

見沼たんぼでは、いろんな仲間たちが、見沼の自然を愛し、守り、魅力を伝えるなどの活動をしています…。ここでは、そんな団体の活動内容を紹介していきます。

「馬場小室山遺跡に学ぶ市民フォーラム」への誘い

見沼たんぼのルーツ「見沼文化」を体感しよう！

見沼たんぼのルーツを想像できますか？

水道も井戸もなかった時代、水辺は人々の営みにとっても大切な場所でした。見沼たんぼのルーツは3万年にもおよぶ水辺の変遷でした。見沼たんぼは峡谷と草原から始まり、温暖化で海になり、冷涼化で河口へとかわり、やがて沼沢となりました。今では想像できないような大きな環境変化をのりこえた人々の営みが「見沼文化」です。これは見沼たんぼの素晴らしさを形成した地中の秘密でもあります。



青空考古学教室

見沼をのぞんだ縄文むらへ行こう！

さいたま市指定史跡・馬場小室山遺跡は緑区三室中学校の南側にあります。学習塾・東大能研の飯塚邦明さんたちの努力が実り、2005年3月29日に史跡となりました。見沼をのぞんだ溺れ谷の奥の屋敷林全体が縄文時代の集落の跡や膨大な生活の道具を残す素晴らしいタイムカプセルでした。

毎年5月4日には市民の方々の協力により史跡を清掃します。2,000年続いた集落の威容を解説し、体感頂きます。子供たちが遠い昔の人々の営みに触れる青空考古学教室では、親しみやすいマスコット・キャラクターの人面文土器「ムロさま」になったつもりで縄文むらと「見沼文化」を想像します。



人面文土器
「ムロさま」

見沼たんぼの絆こそが「見沼文化」！

ご先祖様と見沼の絆は今も地中に眠っています。馬場小室山遺跡は史跡範囲だけではありません。14代前から続く武笠家の屋敷林として縄文時代の姿がそのまま残されています。地元の画家・井山紘文さんが発掘成果などを参考に集落をジオラマで精確に復元しました。百年後にはジオラマのような歴史公園にしたいとの願いが込められています。

馬場小室山遺跡から「見沼文化」を想像しながら見沼たんぼのルーツに思いを馳せる機会にしようと、毎年秋には発表会や展示会も行います。

見沼たんぼを愛する多くの方々に国史跡級の馬場小室山遺跡とその形成背景としての「見沼文化」を体感して頂きたく、わたしたちは活動しています。

「馬場小室山遺跡に学ぶ市民フォーラム」
事務局 鈴木正博



史跡の清掃に集まった方々

浦和博物館

住所：さいたま市緑区三室 2458 電話：048-874-3960
開館時間：9時～16時30分 休館日：月曜日(祝日の場合、翌日休館)

1 展示活動

- ① 企画展「ちょっと昔のくらしの道具展」
期間：4月10日(日)まで 時間：9時～16時30分
内容：今の小学生の父母・祖父母が子供のころに使った道具、昔の学校のようななどを展示。小学校3年生向け。

2 三室地区定例探鳥会

日時：1月16日、2月20日、3月20日(毎月第3日曜日)
9時00分～12時00分 集合：9時に浦和博物館
場所：浦和博物館周辺の見沼たんぼ
主催：日本野鳥の会埼玉県支部
参加費：高校生以上1000円、小・中学生500円(未就学児は無料)

3 教育普及事業

- ① 昔のあそび
日時：1月8日(土)～10日(月・祝)と3月25日(金)～27日(日)
時間：10時～15時
内容：竹馬、ペーゴマ、おはじき、竹とんぼなどの遊びに挑戦。(雨天中止)
費用：無料、時間内いつでも自由参加
- ② 昔のおもちゃづくり
日時：1月10日(月・祝)
時間：10時～12時、13時～15時
内容：はねる伝承おもちゃ「ぱっちゃん」を作ろう！
費用：1つにつき200円(材料費)・当日申し込み、時間内いつでも自由参加

浦和くらしの博物館民家園

住所：さいたま市緑区下山口新田 1179-1 電話：048-878-5025
開館時間：9時～16時30分 休館日：月曜日(祝日の場合、翌日休館)

- ① 小正月行事(藪玉だんごを飾る)
日時：1月10日(月・祝)10時～12時
内容：藪玉を作った背景を知り、団子を作り民家に飾ります。
- ② 昔のくらし体験
日時：1月23日(日)10時～12時
内容：昔の人のくらしの知恵を体験し、過去・現在・未来のくらしを考えます。
- ③ 探鳥会
日時：2月6日(日)9時～12時
内容：見沼たんぼ内、その周辺の野鳥の観察
- ④ 見沼塾「和紙をすく・つくる」
日時：2月27日(日)、3月13日(日)10:00～12:00
- ⑤ 竹馬づくり
日時：3月21日(月・祝)10:00～12:00
内容：竹・縄を使って昔ながらの竹馬を作り、乗ります。

旧坂東家住宅見沼くらしっく館

住所：さいたま市見沼区片柳 1266-2 電話：048-688-3330
開館時間：9時～16時30分 休館日：月曜日(祝日の場合、翌日休館)

1 主催事業

- ① 趣味・教養講座(定員あり/無料)
- | | | |
|-------------------|------------------|-----|
| ① 蠟石で作るペンダント | 1月13日(木)14時～16時 | 10名 |
| ② 蠟石で何かを作ろう! | 1月14日(金)14時～16時 | 10名 |
| ③ オブソ粘土で片口を作ろう! | 1月18日(火)14時～16時 | 10名 |
| ④ 押花で作るブックカバーとしおり | 1月19日(水)14時～16時 | 10名 |
| ⑤ 和紙で作るランプシェード | 1月20日(木)14時～15時半 | 10名 |
| ⑥ 風糸で作るランプシェード | 1月21日(金)14時～15時半 | 10名 |
| ⑦ 竹細工教室「孫の手」 | 1月22日(土)10時～12時 | 10名 |
| ⑧ 竹細工教室「凧」 | 1月23日(日)10時～12時 | 10名 |
| ⑨ 押花で木箱を飾る | 1月25日(火)14時～16時 | 10名 |
| ⑩ 石膏シトで作るランプシェード | 1月27日(木)14時～15時半 | 10名 |
| ⑪ メッシュ布で作るランプシェード | 1月28日(金)14時～15時半 | 10名 |
| ⑫ 竹細工教室「靴べら」 | 1月29日(土)10時～12時 | 10名 |
| ⑬ オブソ粘土でガッパを作ろう! | 1月30日(日)14時～16時 | 10名 |
| ⑭ エコ関連講座「竹箸作り」 | 2月9日(水)14時～16時 | 10名 |
| ⑮ 竹細工教室「ハンガー」 | 2月11日(祝)14時～16時 | 10名 |
| ⑯ 竹細工教室「茶杓」 | 2月12日(土)14時～16時 | 10名 |
| ⑰ オブソ粘土で作る土鈴 | 2月17日(木)14時～16時 | 10名 |

- | | | |
|------------------|------------------|-----|
| ⑱ 土粘土で作る箸置 | 2月18日(金)14時～16時 | 10名 |
| ⑲ エコ関連講座「堆朱箸作り」 | 2月23日(水)14時～15時半 | 10名 |
| ⑳ 和紙工芸「絵馬の雛飾り」 | 2月24日(木)14時～15時半 | 10名 |
| ㉑ 書道講座「我が家の表札作り」 | 2月25日(金)14時～16時 | 10名 |
| ㉒ 竹細工教室「ペーパーナイフ」 | 3月12日(土)10時～12時 | 10名 |
| ㉓ 韓紙で作る菓子皿 | 3月17日(木)14時～16時 | 10名 |
| ㉔ 韓紙で作る手箱 | 3月18日(金)14時～16時 | 10名 |
| ㉕ 韓紙で作る菓子盆 | 3月25日(金)14時～16時 | 10名 |

② 親子体験講座(定員あり/無料)

- | | | |
|-----------------|------------------|-----|
| ア 親子で作るパタパタ飛行機 | 3月19日(土)14時～15時半 | 10名 |
| イ 親子で作る風船ハリコブター | 3月21日(祝)14時～15時半 | 10名 |

③ 公開講座(定員なし/無料)

- | | | |
|------------------------------|----------|-----------|
| A 加田屋の七草粥 | 1月7日(金) | 10時～11時 |
| B いろいろ端で聞く年の始めのおはなし会 | 1月8日(土) | 14時～14時半 |
| C 小正月の藪玉・作花作り | 1月15日(土) | 10時～12時 |
| D 加田屋流投扇 | 1月16日(日) | 10時～12時 |
| E 郷土を知る講座「大山阿夫利神社と大山灯籠・納め太刀」 | 1月26日(水) | 14時～15時半 |
| F 節分の豆まきとヤッカガシ | 2月3日(木) | 14時～15時 |
| G いろいろ端で聞く鬼のおはなし会 | 2月5日(土) | 14時～14時半 |
| H 初午のしみづかり | 2月8日(火) | 14時～15時 |
| I 自然を学ぶ講座「見沼の巨木」 | 2月20日(日) | 14時～15時半 |
| J いろいろ端で聞く春のおはなし会 | 3月5日(土) | 14時～15時半 |
| K 自然を学ぶ講座「見沼の植生」 | 3月20日(日) | 14時～15時半 |
| L 民話鑑賞「春の野辺 昔語りに花綻ぶ」 | 3月26日(土) | 13時半～15時半 |

2 企画展示

- | | |
|----------------|------------------|
| 「跳ぶ兎・跳ねる兎」 | 1月5日(水)～1月30日(日) |
| 「遊びの造形—張子と土人形」 | 2月1日(火)～2月27日(日) |
| 「韓の匠」 | 3月1日(火)～3月27日(日) |
- ※申込み等の詳細については見沼くらしっく館にお問い合わせ下さい。

農業者トレーニングセンター(園芸植物園・大崎公園・子供動物園)

住所：さいたま市緑区大崎 3156-1 電話：048-878-2026
開館時間：10時～16時 休館日：月曜日(祝日の場合、翌日休館)

- ① 第10回さいたま市洋らん展
期日：2月4日(金)～6日(日)10時～16時
会場：園芸植物園展示温室
内容：洋らんの展示即売、市民が栽培した洋らんの展示、園芸講座・園芸相談など
- ② 第10回さいたま市椿展
日時：3月26日(土)～27日(日)10時～16時
会場：園芸植物園 花き展示温室
内容：椿の切り花、ディスプレイの展示、椿に関する園芸相談、椿の苗木有料頒布
- ③ 子供動物園「お正月クイズラリー」
日時：1月4日(火)～6日(木)11時～15時
会場：子供動物園(大崎公園内)
対象：小学生以下の方
申込み：当日会場内受付にて
内容：園内にある動物問題を解いてパスワードをみつけます。正解者には干支の記念パッチをプレゼントします。
費用：無料

大宮第二・第三公園管理事務所「大宮第2公園・公園ギャラリー」

住所：さいたま市大宮区寿能町 2-405 電話：048-645-9605
開館時間：8時30分～17時
休館日：毎月第1・3・5日曜日(祝日の場合、翌日休館)

1 展示会 ※詳細は、直接事務所にお問い合わせください。

- | | |
|-------------------------------|-------------------|
| 押花展示「散歩道だより」 | 2月1日(火)～2月13日(日) |
| 「第11回さいたま緑のトラスト写真コンクール」入賞作品展示 | 2月8日(火)～2月18日(金) |
| サタデーフォトクラブ・四季の写真展 | 2月28日(月)～3月6日(日) |
| 裨画絵の展示即売会 | 3月1日(火)～3月13日(日) |
| US四季の会写真部クラブ展 | 3月8日(火)～3月13日(日) |
| 春の山野草展示と即売会 | 3月24日(木)～3月27日(日) |
| さきたま墨雅会展 | 3月28日(月)～4月3日(日) |

2 イベント ※詳細は、直接事務所にお問い合わせください。

- | | |
|----------|-------------------|
| 第27回梅まつり | 2月5日(土)～2月28日(月) |
| 全国大陶器市 | 2月23日(水)～2月28日(月) |
| 呈茶サービス | 2月26日(土)、2月27日(日) |

見沼たんぼくらのイベント案内

第79回見沼塾 『自然を学ぶ講座 - 見沼の巨木』

日 時：2月20日(日) 14:00~15:30
場 所：旧坂東家住宅主屋及び見沼周辺
講 師：齋藤 良夫(日本甲虫学会)
内 容：見沼周辺の巨木の講義及び巨木の見学を実施。
申 込：当日自由参加(雨天決行)
参 加 費：無料
問 合 せ：TEL(048)688-3330(くらしっく館)

第80回見沼塾 『和紙を漉く・和紙でつくる(2回で1講座)』

日 時：①2月27日(日) 9:30~12:00
②3月 6日(日) 9:30~12:00
場 所：浦和くらしの博物館民家園(旧蓮見家住宅にて実施)
内 容：手漉き和紙職人の指導により、楮を原料とした和紙作り体験及び二回目は自分で漉いた和紙で作品づくりをします。
申 込：2月4日(金)から電話で民家園へ
参 加 費：材料費 600円
問 合 せ：TEL(048)878-5025(民家園)

第81回見沼塾 『自然を学ぶ講座 - 見沼の植生』

日 時：3月20日(日) 14:00~15:30
場 所：旧坂東家住宅主屋及び見沼周辺
講 師：齋藤 良夫(日本甲虫学会)
内 容：見沼周辺の植生の講義及び植生の見学を実施。
申 込：当日自由参加(雨天決行)
参 加 費：無料
問 合 せ：TEL(048)688-3330(くらしっく館)

第43回自然観察ハイキング 『見沼の自然と史跡を訪ねて』

日 時：3月26日(土) 9時30分~12時30分
集 合 地：合併記念見沼公園
内 容：自然観察指導員のガイドで、春の七草はじめ野の花を観察し、大宮南部浄化センターで環境にやさしい施設を見学し、円蔵院の天然記念物シダレザクラ・大イチョウを觀賞します。
コ ー ス：合併記念見沼公園 wc ⇒ 芝川右岸 ⇒ 高鼻橋 ⇒ 新右工門新田 ⇒ 芝川左岸 ⇒ 山口橋 ⇒ 大宮南部浄化センター wc ⇒ 上山口新田 ⇒ 円蔵院 wc

申 込：当日、合併記念見沼公園管理棟で9時から受付
参 加 費：¥500(見沼たんぼくらぶ会員及び中学生以下は無料)

持 物：雨具、筆記具(双眼鏡・カメラもあれば便利)
交 通：大宮駅東口からバス④自治医大行き終点下車徒歩2分(自治医大南側)
大宮発8時30分 or 9時(約10分乗車)
問 合 せ：TEL(048) 683-1764・小野

市民団体のイベント案内

緑の活動事例交流会

日 時：1月8日(土) 13時30分~16時30分
会 場：浦和コミュニティセンター第15集会室
主 催：彩の国緑の推進連絡会
記念講演：さいたま市・見沼たんぼの緑の推進に関わって
小野 達二
事例発表：見沼田圃の観察から一大宮第二公園周辺 若野 忠男
DVDで見る自然・活動 青木 幹弥 青木 正子
申 込：当日、会場で13時から受付 参加費：無料
問 合 せ：TEL(048) 683-1764・小野

第215回見沼ぶらり・おもしろ自然観察

日 時：1月16日(日) 13時~16時
集 合 地：大宮第二公園南管理棟
主 催：NPO法人自然観察さいたまフレンド
内 容：自然観察指導員のガイドで、テーマ別に3グループに分かれ、芝川低地と斜面林を散策します。
約4km
①初心者のためのバードウォッチング
②樹木の冬芽観察
③野草の冬越え
申 込：当日、集合地で12時30分から受付
参 加 費：¥500(中学生以下は無料)
持 物：雨具、筆記具(双眼鏡・カメラもあれば便利)
交 通：大宮駅東口からバス⑧宮下行き「芝川」下車、北側。大宮発12時15分 or 12時35分(約10分乗車) または東武野田線大宮公園駅下車徒歩20分
問 合 せ：TEL(048) 683-1764・小野

「見沼たんぼくらぶ」をお友達に紹介してください! 「見沼たんぼ」を愛する仲間を増やしましょう! 年会費：個人(ファミリー)・団体・法人とも一口¥1,000です。

(編集・発行) 見沼たんぼくらぶ

〒337-0053

さいたま市見沼区大和田町 1-2124-3 小野方

TEL・FAX：(048) 683-1764

URL：http://minumatanbo.web.fc2.com/